

地元・五ヶ瀬を「森上げ隊」

いま No.407
子どもたちは
森の学校 5

山頂に祭られた金毘羅さんを
目指し、宮崎県立五ヶ瀬中等教
育学校の1〜3年生14人が、太
鼓やちようちん、竹材などを手
に黙々と山道を歩いていく。

11月3日、学校の近くで毎年
恒例の「金毘羅さん祭り」があ
り、生徒たちは荷物運びを手伝
っていた。みんなを誘ったのは
生徒会役員の3年生、藤本航太
君(15)。同校では数少ない五ヶ
瀬町出身者だ。

「せっかく五ヶ瀬に来たな
ら、祭りや行事にどんどん参加
して地域のことを知ってほし
い」と話す。

生徒会役員が2年前に立ち上
げた「森上げ隊」の活動の一環

だ。「(地域を)盛り上げた
い」にかけた名前で、五ヶ瀬の
人たちと交流する機会を増やす
のが主目的。生徒会が地元に関
立つことを探し、校内で有志を
募る。これまで、老人ホームの
大掃除や町内のゴミ拾い、農作
業、植樹などをしてきた。

金毘羅さん祭りの手伝いは初
めて。藤本君が役場で祭りの年
間予定を調べ、担当者から主催
者の一人の菊池政博さん(52)の
連絡先を教えてもらった。菊池

さんは「山に荷物を運ぶ力仕事
やけど、やってくれるか」。

「やらせてください。何でも
やります!」
「10人くらいほしいな」

学校で声をかけると、参加者
はすぐに集まった。3年の渡辺
由圭さん(15)は「地域の人から
祭りの由来や昔の町の話を知る
のが楽しみ」と話した。

生徒たちは山の入り口にある
鳥居から山頂までの急な山道を
3回ほど往復し、祭事道具や食
べ物を運び上げた。祭りの参加
者の多くはお年寄りだ。

「全部自分らで運ぶのは大
変。若い人手があつて今年はお
なり助かった」と菊池さん。

祭りが始まると、山頂に約80
人が集まり、金毘羅さんの前で
笛や太鼓に合わせ、舞が披露さ
れた。その後、焼き肉やいなり
ずし、もちをいただく。生徒た
ちは、竹を使って自分の皿と箸
をつくった。

指導した菊池さんは「山頂で
燃やして帰れば、ゴミも出ん
し、便利じゃろ?」。

竹で箸を作る藤本航太君(左)ら
|| 宮崎県五ヶ瀬町
(斉藤純江)

藤本君は「来年は他校の中学
生も誘って、一緒に祭りを盛り
上げたい」。

(斉藤純江)

